



「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて

◆なぜ今、 **コミュニティ・スクール** と **地域学校協働活動** が必要なのか？

背景 時代の変化に伴い学校と地域の在り方が変化

◆教育環境を取り巻く状況

- 児童生徒数の減少
- 子供の規範意識等への課題
- 学校が抱える課題の複雑化・困難化

◆社会の動向

- 少子高齢化の進行
- グローバル化や情報化の進展
- 地域社会のつながりや支え合いの希薄化による地域の教育力の低下

◆教育改革の動き

- 「社会に開かれた教育課程」の実現など

◆地方創生の動き

- 学校を核とした地域の活性化

求められるものとは・・・

◆これからの時代を生き抜く力の育成 (学校だけでは得られない知識・経験・能力)

◆地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換

学校と地域の連携・協働が必要

具体的な取組として・・・

コミュニティ・スクール

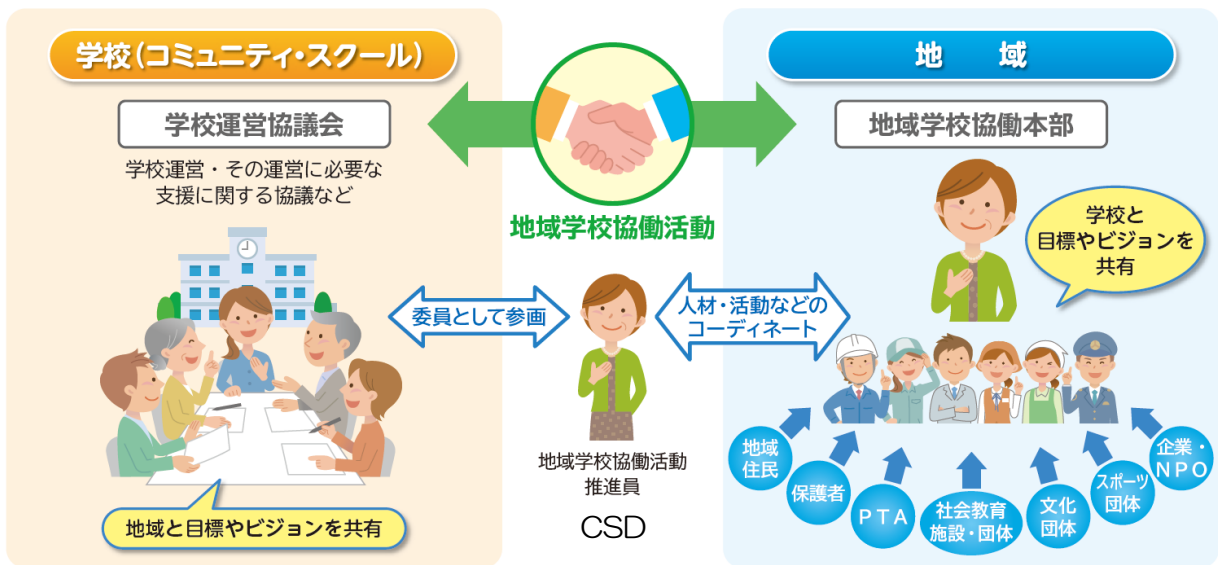


地域学校協働活動

『目標』や『ビジョン』
の共有

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を併せて実現！

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一つの取組として



コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に進めるためには、**まず関係者で目標やビジョンを共有することが重要で、学校運営協議会の協議や熟議^(※)等がその役割を果たします。**その結果を踏まえ、幅広い地域住民等が参画することによって、**教育活動や地域学校協働活動の充実や活性化**につながります。

学校運営協議会と地域学校協働本部は、それぞれがもつ役割を十分に機能させ、**一体的に推進することで、相乗効果を発揮し、学校運営の改善と地域づくりに資する活動が一層進んでいくことが期待されます。**

※「熟議」とは…多くの当事者が「熟慮」と「議論」によって問題の解決を目指す対話のこと。様々な立場の関係者が一つのテーブルにつくことで、新しいアイデアや考え方が生まれます。

学校と地域、双方から見たPDCA（計画→実行→評価→改善）

効果的かつ持続的な学校運営と地域学校協働活動の仕組みを構築するためには、**学校運営協議会と地域学校協働活動のそれぞれのPDCAを回しつつ、お互いが連携・協働することが重要です。**



令和5年度第3回運営協議会

【協議テーマ】南の丘学園の課題と今後への提言

【協議まとめ】

地域や家庭、学校が三位一体となって、ウェルビーイングを目指す		
・地域人材・資源の活用 ・高校・専門学校・大学	・体験活動 ・自然体験	・人間関係の教育 ・地域ボランティア

令和6年度第1回運営協議会

【協議テーマ】

「ウェルビーイング」の実現に向けて、学校と地域が一層、協働し合えることは何だろうか ～南中や南の丘地区の特色をもっと生かすには～

【協議の視点】

1「やってみよう」 主体的、わくわく 創造性、探究的 夢・目標	総合的な学習 1年:防災、2年:職業、3年:福祉学習 ・地域資源・人材ともっと関わる機会をつくるには… ・高校・専門学校・大学と交流をもつには…
2「なんとかなる」 前向きさ、楽観性 失敗、チャレンジ 自己受容	地域でのユニット活動 ・コミュニティセンター活動等で活躍するには… ・防災訓練、祭典等で活躍するには…
3「ありのまま」 自分が好き 自分らしさ アウトプット	人間関係の教育 ・サポートルームをもっと充実させるには… ・自然体験の機会をもっと増やすには…
4「ありがとう」 つながり、感謝 関わり、協働 ボランティア	1「やってみよう」、2「なんとかなる」、3「ありのまま」 を通して、地域に感謝できる南中生、地域から感謝される南中生を目指します